



## 【第44期初級陸曹特技課程「准看護師」戴帽式】 令和元年10月4日

自衛隊札幌病院准看護学院（学院長：高橋1佐）は、令和元年10月4日（金）、北部方面総監部医務官、同人事課長、訓練課長、北部方面最先任上級曹長及び病院関係者が臨席する中、第44期准看護課程の戴帽式を挙行了た。

厳粛な雰囲気の中執り行われた戴帽の儀において、真新しい看護衣に身を包んだ学生26名（男子：14名、女子：12名）は、令和元年初の国民の自衛官を受賞した看護教官の叢手3佐からナースキャップを戴いた後、学生長の指揮のもと衛生科精神を唱和し、医療従事者として「骨肉の至情と挺身奉仕の精神」に徹し、勇敢かつ沈着冷静に任務遂行に邁進する誓いをたてた。

式にあたり、病院長は、「向上心を継続せよ」、「感謝できる人になれ」の2点を掲げ、「今日、心に誓った衛生科精神を芯に据え、将来に向かって大きく成長することを期待する」と訓示された。准看護学院長（高橋1佐）は、「自分だけの考えではなく、周囲の意見もよく聞き、様々な考え方や価値観を受け入れる姿勢が重要である」と式辞を述べた。来賓の北部方面総監部医務官（竹島1佐）は、「責任感を持って知識・技術の習得に努め、今抱いている覚悟と決意を忘れずに将来衛生救護陸曹として、如何なる任務も完遂し、国民の負託に答えよ」との祝辞を述べた。

学生は、有意義な臨地実習を行い、立派な准看護師たる自衛官を目指す。



戴帽の儀



記念撮影



衛生科精神唱和



自衛隊札幌病院長（大鹿陸将）訓示



准看護学院長（高橋1佐）式辞